

動物への慈悲：宗教上の、また人間としての責任について

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَمَا مِنْ دَابَّةٍ فِي الْأَرْضِ وَلَا طَائِرٍ يَطِيرُ بِجَنَاحَيْهِ

إِلَّا أُمَّةٌ أَمْثَالُكُمْ

وَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ:

فِي كُلِّ كَبِدٍ رَطْبَةٌ أَجْرٌ

尊敬すべきムスリムの皆様！

宇宙のすべての生きものがそうであるのと同じく、動物もまた全能のアッラー（スブハーナワタアラー）の存在と威力の証拠としての役割を担っています。そのもっとも小さいものから、大きいものまで、すべての動物にアッラーの御業としての価値があり、またアッラー（スブハーナワタアラー）によって人間に委ねられています。私たち人間には、動物を誠実に、慈悲深く、そして思いやりをもって扱う責任があります。

イスラームにおいては、動物に対する抑圧や虐待となるあらゆる行為、また動物は何のために創造されているのか、その理由に相反することを強いる扱いを

禁じています。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は、私たちに対し次のように警告しています。「小さな鳥でも、あるいはそれより大きな獣でも、正当な理由なくして殺害する者は、偉大かつ崇高なアッラーに問いただされることになるだろう」。<sup>1</sup>

親愛なるムスリムの皆様！

聖クルアーンにおいては、次のように告げられています。「大地に生きるものも、両の翼で飛ぶ鳥も、あなたがたと同じように共同体でないものはない。われらは、[われらの定めた]啓典の中にあるものを、何ひとつないがしろにはしない。やがて彼らは、主の御許に集められるだろう」。<sup>2</sup> 私たち人間と同じく、動物もまた、確かに地球の住人です。生命に関する基本的な権利も、危害が加えられないよう避難し、保護される権利もあるということを忘れないようにしましょう。愛情、思いやり、熟考の視点から、存在の世界を見てみましょう。何であれ、生きものを傷つけないようにしましょう。宗教的にも、人間的にも、良心の観点からも責任を果たすことにより、私たちの主（スブハーナワタアラー）のご承認を得られるよう努めましょう。

<sup>1</sup> Nasa'i, Sayd, 34.

<sup>2</sup> An'am, 6/38.